

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3223799号
(U3223799)

(45) 発行日 令和1年10月31日 (2019. 10. 31)

(24) 登録日 令和1年10月9日 (2019. 10. 9)

(51) Int. Cl.

A 4 5 F 4/12 (2006. 01)

F 1

A 4 5 F 4/12

評価書の請求 未請求 請求項の数 10 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 実願2019-3154 (U2019-3154)
 (22) 出願日 令和1年8月22日 (2019. 8. 22)
 (31) 優先権主張番号 201921283393. 6
 (32) 優先日 令和1年8月8日 (2019. 8. 8)
 (33) 優先権主張国・地域又は機関
 中国 (CN)

(73) 実用新案権者 517366507
 長沙市品冠皮革貿易有限公司
 CHANGSHA PINGUAN LE
 ATHER TRADE CO., LTD
 中華人民共和国 湖南省 長沙市 開福区
 洪山路 188号 ザンロン インター
 ナショナル レイクガーデン アパートメ
 ント 3-9棟 202号室
 (74) 代理人 100101878
 弁理士 木下 茂
 (72) 考案者 吳 明明
 中華人民共和国湖南省長沙市開福区洪山路
 188号ザンロンインターナショナルレイ
 クガーデンアパートメント3-9棟202
 号室

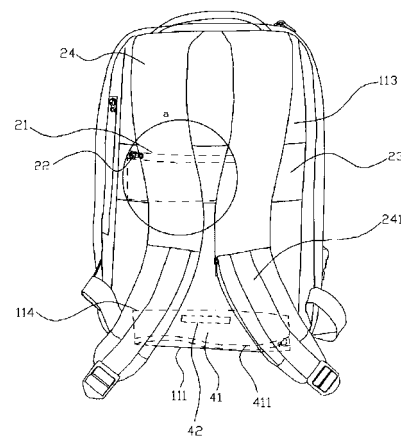
(54) 【考案の名称】 多機能バックパック

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 レインコートの持ち運びが便利であり、且つポータブルレインコートで便利に身体とバッグ本体に覆うことができるという利点を有する多機能バックパックを提供する。

【解決手段】 多機能バックパックは、バックパック本体を備え、バックパック本体には、バックパック本体の内側に向かって延びるレインコートキャビティ 41 が設けられ、レインコートキャビティには開口 411 が設けられ、開口 411 にはシール部が設けられ、レインコートキャビティにはポータブルレインコートが内蔵され、ポータブルレインコートの両側辺にはそれぞれ一つの引っ張り部があり、引っ張り部は開口 411 の両側に位置している。

【選択図】 図 2



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

バックパック本体を備えた多機能バックパックであって、

前記バックパック本体には、当該バックパック本体の内側に向かって延びるレインコートキャビティが設けられ、

前記レインコートキャビティには開口が設けられ、当該開口にはシール部が設けられ、また、前記レインコートキャビティにはポータブルレインコートが内蔵され、当該ポータブルレインコートの両側辺にはそれぞれ引っ張り部があり、当該引っ張り部は開口の両側に位置することを特徴とする多機能バックパック。

【請求項 2】

10

前記開口は、前記バックパック本体の底部であって、且つ当該バックパック本体の背部付近に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の多機能バックパック。

【請求項 3】

前記開口は、前記バックパック本体の頂部または後部に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の多機能バックパック。

【請求項 4】

前記バックパック本体の底部には、外側から内側に向かって、バックパック底部と、防水層とが順次に設けられ、

前記防水層は、前記バックパック本体の底部から離れる方向に向かって延び、前記バックパック底部とによってレインコートキャビティを形成し、

20

前記バックパック底部には前記レインコートキャビティを開くための開口が設けられ、前記シール部はジッパーであることを特徴とする請求項 2 に記載の多機能バックパック。

【請求項 5】

前記ポータブルレインコートの裏面の底部は、面ファスナーによって前記レインコートキャビティに接続されていることを特徴とする請求項 1 に記載の多機能バックパック。

【請求項 6】

前記引っ張り部は引っ張りリングであり、当該引っ張りリングには反射テープが設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の多機能バックパック。

【請求項 7】

30

前記バックパック本体にはバックパック本体キャビティが設けられ、当該バックパック本体キャビティには当該バックパック本体の一方の底部から他方の底部まで延びたシーリングジッパーが設けられ、

前記バックパック本体キャビティの底部の両側には面ファスナーによって接続される 2 つの接続片がそれぞれ配置され、

前記バックパック本体の他方側には、コンビネーションロックが設けられ、当該コンビネーションロックには、シーリングジッパーに接続するためのロック装置が設けられることを特徴とする請求項 1 に記載の多機能バックパック。

【請求項 8】

前記バックパック本体の一方側にソケットが設けられ、

40

前記バックパック本体の内側に取り外し可能なキーリングが配置され、当該キーリングの下にはキャビティが配置されていることを特徴とする請求項 1 に記載の多機能バックパック。

【請求項 9】

前記バックパック本体の背部の中間位置には、当該バックパック本体の底部に向かって延びる第 1 のキャビティが設けられ、

前記第 1 のキャビティには、ジッパーが設けられた横向開口部が設けられ、

前記バックパック本体の背部には横向開口部を覆う横向ストラップが設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の多機能バックパック。

【請求項 10】

50

前記バックパック本体の背部にはショルダーストラップが設けられており、

前記ショルダーストラップの上面には、当該ショルダーストラップの上面との間に隙間が設けられたベルト体が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の多機能バックパック。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、バックパックの分野に関し、特に多機能バックパックに関する。

【背景技術】

【0002】

10

近年、バッグは多くの物品を収納でき、持ち運びが便利のため、出かけるときに欠かせないアイテムになっている。人々の生活のペースが加速し続けることに伴って、旅行するためにさまざまな物品を持ち歩く必要があり、人々のそれぞれのニーズを満たすために、さまざまなバックパックが市販されている。

天候の変化を予測することは不可能であるため、出かけるときにバッグに傘やレインコートを置いとくのが一般的である。しかし、このようなバッグは、傘やレインコートが忘れられやすく、バックパックの重量を増やし、持ち運びも容易ではない。出願番号が C N 2 0 1 0 2 0 2 2 8 4 8 5 . 7 であり、公開日が 2 0 1 1 . 0 1 . 0 5 である先行技術の中国特許文献には多機能ランドセルが開示されている。

具体的に、多機能ランドセルは、ランドセル本体と、ランドセル本体に接続された 2 本のランドセルバンドとを備え、ランドセル本体は外側装飾層と内側サンドイッチ層とを備え、ランドセル本体の内側底部には内部に防水レインコートが収納されるレインコートバッグがさらに配置され、レインコートバッグが外側装飾層とサンドイッチ層との間に挟まれており、接続部材を介してサンドイッチ層と接続されている。

20

このランドセルの構造は簡単で、レインコートとランドセルと一緒に運ぶことができ、使い勝手が良い。しかし、この構造は、ランドセル本体の内側底部にレインコートバッグが設けられ、且つ当該レインコートバッグがサンドイッチ層に接続されているため、レインコートを取り出すには、ランドセル本体を開いてレインコートバッグを取り出してレインコートを取り出さなければならない。同時に、レインコートをランドセルに入れる場合には、レインコートバッグを開いてレインコートを置いてからレインコートバッグをランドセル本体に置く必要がある。そのため、取り扱いが不便であり、ユーザーが背中にバッグを掛けたときに、レインコートをランドセル本体にカバーしにくい。

30

【考案の概要】

【0003】

本考案は、従来技術に存在する課題を解決するために、レインコートの持ち運びが便利であり、且つポータブルレインコートで、便利に身体とバッグ本体を覆うことができるという利点を有する多機能バックパックを提供する。

【0004】

上記の目的を達成するために、多機能バックパックは、バックパック本体を備え、バックパック本体には、バックパック本体の内側に向かって延びるレインコートキャビティが設けられ、レインコートキャビティには開口が設けられ、開口にはシール部が設けられ、レインコートキャビティにはポータブルレインコートが内蔵され、ポータブルレインコートの両側辺にはそれぞれ引っ張り部があり、引っ張り部は開口の両側に位置する。

40

【0005】

上記の構成によって、バックパック本体に内側に延びるレインコートキャビティが設けられ、且つレインコートキャビティにはポータブルレインコートが内蔵されているため、レインコートの持ち運びが容易となり、且つレインコートキャビティが露出せず、構造が簡単である。同時に、ポータブルレインコートの両側辺に引っ張り部が設けられており、引っ張り部は開口の両側に位置する。従って、レインコートを取り出してバックパックと身体を覆おうとするときに、開口のシール部、すなわち開口を開くだけで良い。ユーザー

50

は両手で開口の両側に沿ってポータブルレインコートの引っ張り部を取って、まずはポータブルレインコートを下に引っ張って、ポータブルレインコートの一部をレインコートキャビティから引き出させて、そしてポータブルレインコートの引っ張り部を持ち上げて、ポータブルレインコートをバックパック本体と身体を覆わせるようにして、ポータブルレインコートによって身体およびバックパック本体を都合よく覆うことができ、身体およびバックパック本体が雨に降られることを効果的に防ぐことができる。

【0006】

さらに、前記開口は、バックパック本体の底部、且つバックパック本体の背部付近に設けられている。上記の構成によって、開口がバックパックの底部に設けられているため、バックパックのユーザーは、開口からポータブルレインコートを引き出すことができ、同時に悪質の人が開口を開けてポータブルレインコートを盗むことも防ぐことができる。また、開口がバックパック本体の背部付近に配置されているため、ユーザーから開口までの距離をさらに短縮でき、より便利に開口を開けてレインコートを取り出すことができる。

10

【0007】

さらに、前記開口は、バックパック本体の頂部または後部に設けられている。上記の構成によって、ユーザーが開口からポータブルレインコートを引き出す使い勝手が良い。

【0008】

さらに、バックパック本体の底部には外側から内側に向かってバックパック底部と、防水層とが順次に設けられ、前記防水層は、バックパック本体の底部から離れる方向に向かって延びて、バックパック底部とともにレインコートキャビティを形成し、バックパック底部にはレインコートキャビティを開くための開口が設けられ、前記シール部はジッパーである。

20

【0009】

上記の構成によって、バックパック本体の底部にはレインコートキャビティが設けられ、且つレインコートキャビティがバックパック底部と内側に延びる防水層によって形成されているため、レインコートがレインコートキャビティに配置された後、レインコートがバッグの内部に配置されることとなり、構造が簡単である。また、ポータブルレインコートを配置した後、レインコートキャビティは露出せず、バックパック本体内にあるため、外観は良好であり、なお、シール部はジッパーを採用するため、構造が簡単である。

【0010】

さらに、ポータブルレインコートの裏面の底部は、ベルクロ（登録商標）によってレインコートキャビティに接続されている。上記の構成によって、ポータブルレインコートの裏面は面ファスナーが設けられてレインコートキャビティに接続されているため、レインコートを引き出すときにレインコートの裏面が露出して、正しく着用するには便利である。また、ポータブルレインコートの底部はレインコートキャビティに接続されているため、ポータブルレインコートを引き出すとき、ポータブルレインコートの底部が固定されているため、ポータブルレインコートはバックパック本体をより効果的に覆うことができる。なお、面ファスナーによって接続されるため、身体がレインコートに覆われた後、レインコートをバックパック本体から分離するときに操作が便利となる。

30

【0011】

さらに、前記引っ張り部は引っ張りリングであり、引っ張りリングには反射テープが設けられている。上記の構成によって、ポータブルレインコートの両側にそれぞれに引っ張りリング設けられているため、レインコートを取り出す際に、ユーザーが両手で直接に両側にある引っ張りリングを引くことで、レインコートをより効果的にバックパックと身体に覆うことができ、構造が簡単である。また、引っ張りリングに反射テープが設けられることで、暗い雨の環境でも光を反射して気づかれる役割を果たすことができる。

40

【0012】

さらに、バックパック本体にはバックパック本体キャビティが設けられ、バックパック本体キャビティにはバックパック本体の一方の底部から他方の底部まで延びたシーリングジッパーが設けられ、バックパック本体キャビティの底部の両側に面ファスナーによって

50

接続される２つの接続片がそれぞれ配置され、バックパック本体の他方側には、コンビネーションロックが設けられ、コンビネーションロックには、シーリングジッパーに接続するためのロック装置が設けられる。上記の構成によって、バックパック本体キャビティには設けられたシーリングジッパーが一方の底部から他方の底部まで延びることで、バックパック本体キャビティを開いたときの開口角度が最大化され、物品に対する取扱いが便利となり、同時に、バックパック本体キャビティの底部の両側に接続片が配置されることで、バックパック本体キャビティの前部と後部との間の接続強度が強化される。そのため、物をバックパック内に入れすぎても、バックパック内の物によるシーリングジッパーに対する引っ張り力を減らすことができる。さらに、バックパック本体の一方側には、コンビネーションロックが設けられ、コンビネーションロックには、シーリングジッパーに接続するためのロック装置が設けられている。上記の構成によって、バックパック本体の一方側にはコンビネーションロックが設けられ、コンビネーションロックによってバックパック本体キャビティのシーリングジッパーをロックすることで、悪質の人がバックパック内の物品を盗むのを防ぐことができる。

10

20

30

【００１３】

さらに、バックパック本体の一方側にソケットが設けられ、バックパック本体の内側に取り外し可能なキーリングが配置され、キーリングの下にはキャビティが配置されている。上記の構成によって、携帯電話などのものをバックパック本体に置いた後、イヤホンなどを設置して音楽を聴いたりする操作も可能となり、充電器を繋ぎつけて充電することもできる。また、バックパック本体の内側には取り外し可能なキーリングが配置されているため、バックパック本体の内部にキーなどの物を便利に置くことができる。さらに、キーリングの下方にはキャビティを設けることで、キーなどの物がバックパック本体の内部で動く際に生じたノイズを抑制することができる。

【００１４】

さらに、バックパック本体の背部の中間位置には、バックパック本体の底部に向かって延びる第１のキャビティが設けられ、第１のキャビティには、ジッパーが設けられた横向開口部が設けられ、バックパック本体の背部には横向開口部を覆う横向ストラップが設けられている。上記の構成によって、バックパック本体の底部に第１のキャビティが設けられることによって、バックパック本体の収容スペースを増やし、同時に横向開口部を覆う横向ストラップが設けられることによって、横向開口部に設けられたジッパーが体の背中に与えた不快感を抑えることができる。

【００１５】

さらに、前記バックパック本体の背部にはショルダーストラップが設けられており、ショルダーストラップの上面には、ショルダーストラップの上面との間に隙間が設けられたベルト体が設けられている。上記の構成によって、ショルダーストラップにはそれぞれショルダーストラップとの間に隙間が設けられたベルト体が設けられ、この隙間を利用して三脚などの細長い物品を挿入して、バックパック本体の収納スペースを増やすことができる。

【図面の簡単な説明】

【００１６】

【図１】本考案の正面構造の概略図である。

【図２】本考案の裏面構造の概略図である。

【図３】本考案の左側構造の概略図である。

【図４】本考案の右側構造の概略図である。

【図５】本考案のレインコートキャビティの閉状態の概略構造図である。

【図６】本考案のレインコートキャビティの開状態の概略構造図である。

【図７】本考案のポータブルレインコートとレインコートキャビティとが接続される時の概略構造図である。

【図８】本考案の内部構造の概略図である。

【図９】本考案のポータブルレインコートの正面構造を示す概略図である。

40

50

【図 1 0】本考案のポータブルレインコートの裏面構造を示す概略図である。

【図 1 1】図 2 の部分 a の拡大図である。

【図 1 2】図 4 の部分 b の拡大図である。

【図 1 3】図 9 の部分 c の拡大図である。

【考案を実施するための形態】

【0017】

以下、本考案について、図面及び具体的な実施形態を参照しながらさらに詳しく説明する。

【0018】

図 1 から図 1 4 を参照すると、本考案の多機能バックパックは、バックパック本体 1 を備え、バックパック本体 1 にはバックパック本体キャビティ 1 0 1 が設けられ、バックパック本体キャビティ 1 0 1 にはバックパック本体の一方の底部から他方の底部まで延びたシーリングジッパー 2 が設けられ、バックパック本体キャビティ 1 0 1 の底部の両側に面ファスナー（例えば、ベルクロ（登録商標））4 2 によって接続される 2 つの接続片 1 0 2 がそれぞれ配置されている。

【0019】

バックパック本体 1 の頂部にはハンドル 3 1 が設けられている。

【0020】

バックパック本体キャビティ 1 0 1 の裏面には、タブレット用中間層 3 とラップトップパソコン用中間層 4 とが設けられており、二つの中間層のいずれにも中間層の間にある電子デバイス同士の衝撃を防ぐ弾性材料層が設けられ、中間層の外側には定着ベルト 5 が配置され、該定着ベルト 5 には面ファスナー 4 2 が設けられている。該面ファスナー 4 2 がタブレット用中間層 3 の外側にある面ファスナーに接続されることで、外側から中間層にある電子デバイスを固定する。

【0021】

バックパック本体 1 の一方側にはソケット 1 1 が設けられている。バックパック本体 1 の内側には取り外し可能なキーリング 5 1 が配置され、キーリング 5 1 の下にはキャビティ 5 2 が配置されている。本実施形態では、キャビティ 5 2 はメッシュバッグである。ソケット 1 1 がバックパックの一方側に縫い付けられ、且つソケット 1 1 には USB プラグが配置されて充電操作が可能となり、またはイヤホンソケットなどを配置して音楽を聴いたりする操作も可能となる。バックパック本体の内部にキーなどの物を置くために、バックパック本体 1 の内部には取り外し可能なキーリングが配置されている。さらに、キーリングの下方にはキャビティを設けることで、キーなどがバックパック本体の内部で動く際に生じたノイズを抑制することができる。

【0022】

バックパック本体 1 の他方側には、コンビネーションロック 1 2 が設けられ、コンビネーションロック 1 2 には、シーリングジッパー 2 に接続するためのロック装置 1 2 1 が設けられる。ロック装置 1 2 1 は、ロック溝 1 2 1 1 と、ロック溝 1 2 1 1 上に配置されるロックバックル 1 2 1 2 とを含む。コンビネーションロックを使用する場合、シーリングジッパー 2 のジッパーピースをロック溝 1 2 1 1 の中に配置し、ロックバックル 1 2 1 2 をジッパーピースに挿入してロックすることができる。コンビネーションロックはバックパック本体キャビティのシーリングジッパーをロックすることで、バックパックの中の物品が盗まれることを防ぐことができる。

【0023】

バックパックの背部 1 1 3 の中間位置には、バックパック本体 1 の底部に向かって延びる第 1 のキャビティ 2 1 が設けられている。第 1 のキャビティ 2 1 には、ジッパーが設けられた横向開口部 2 2 が設けられ、バックパックの背部 1 1 3 には横向開口部 2 2 を覆う横向ストラップ 2 3 が設けられている。バックパック本体 1 の底部に第 1 のキャビティ 2 1 を配置することによって、バックパック本体の収容スペースを拡大することができ、同時に横向開口部 2 2 を覆う横向ストラップ 2 3 が設けられることによって、横向開口部に

設けられたジッパーが体の背中に与えた不快感を抑えることができる。

【 0 0 2 4 】

バックパック本体 1 の背面にはショルダーストラップ 2 4 が設けられており、ショルダーストラップ 2 4 の上面には、ショルダーストラップ 2 4 の上面との間に隙間が設けられたベルト体 2 4 1 が設けられており、ショルダーストラップ 2 4 にはそれぞれショルダーストラップとの間に隙間が設けられたベルト体 2 4 1 が設けられ、この隙間を利用して三脚などの細長い物品を挿入して、バックパック本体の収納スペースを増やすことができる。

【 0 0 2 5 】

バックパック本体 1 は、バックパック底部 1 1 1 と、バックパック頂部 1 1 2 と、バックパック後部 1 1 3 とを含む。バックパック本体 1 には、バックパック本体 1 の内側に向かって延びるレインコートキャビティ 4 1 が設けられている。レインコートキャビティ 4 1 には、開口 4 1 1 が設けられ、開口 4 1 1 にはシール部 4 1 1 1 が設けられている。本実施形態では、シール部 4 1 1 1 はジッパーであり、ジッパーを締めると、レインコートキャビティが閉状態となり、ジッパーが開かれると、レインコートキャビティは開状態となる。

10

【 0 0 2 6 】

レインコートキャビティ 4 1 にはポータブルレインコート 6 が内蔵されており、ポータブルレインコート 6 の裏面の底部は、面ファスナー 4 2 を介してレインコートキャビティ 4 1 に接続されている。ポータブルレインコート 6 の裏面は面ファスナー 4 2 が設けられてレインコートキャビティ 4 1 に接続されることで、レインコートを引き出すときにレインコートの裏面が露出して、正しく着用する使い勝手が良い。また、ポータブルレインコートの底部はレインコートキャビティに接続されているため、ポータブルレインコートを引き出すとき、ポータブルレインコートの底部が固定されているため、ポータブルレインコートでバックパック本体をより効果的に覆わせることができる。

20

【 0 0 2 7 】

ポータブルレインコート 6 の両側にはそれぞれ一つの引っ張り部があり、引っ張り部が開口 4 1 1 の両側に位置する。本実施形態では、引っ張り部は引っ張りリング 6 1 であり、引っ張りリングが環状ベルトである。引っ張りリング 6 1 には反射テープ 6 1 1 が設けられている。引っ張りリングに反射テープが設けられることで、暗い雨の環境でも光を反射して気づかれる役割を果たすことができる。

30

【 0 0 2 8 】

開口 4 1 1 は、バックパック本体の背部と頂部と後部のいずれかに設けられている。本実施形態では、前記開口 4 1 1 は、バックパック本体の底部であって、且つバックパック本体の背部付近に配置されており、具体的には、バックパック本体 1 の底部に、外側から内側に向かって、バックパック底部 1 1 1 および防水層 1 1 4 が順次に設けられている。前記防水層 1 1 4 はバックパック本体の底部から離れる方向に向かって延びて、バックパック底部 1 1 1 とともにレインコートキャビティを形成する。バックパックの底部 1 1 1 には、レインコートキャビティを開くための開口 4 1 1 が設けられている。前記防水層は、既存の防水布で作られ、レインコートキャビティの防水性をさらに高めるために、バックパックの底部 1 1 1 の内側にも防水層が設けられている。

40

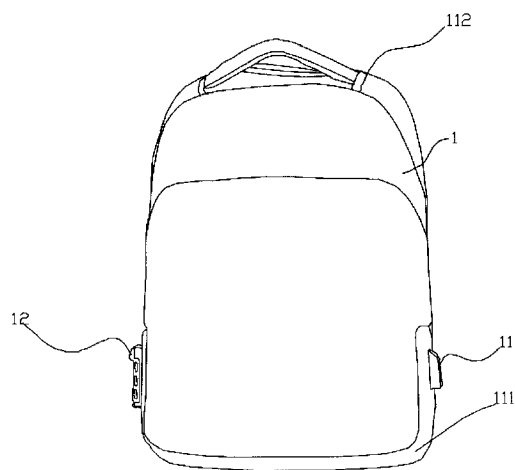
【 0 0 2 9 】

本考案の作動原理は下記となる。ユーザーがポータブルレインコート 6 を取り出してバックパックと身体を覆おうとするときに、開口 4 1 1 におけるシール部 4 1 1 1、すなわち開口 4 1 1 を開くだけで良い。ユーザーは両手で開口 4 1 1 の両側に沿ってポータブルレインコート 6 の引っ張りリング 6 1 を取って、まずはポータブルレインコート 6 を下に引っ張って、ポータブルレインコート 6 の一部をレインコートキャビティ 4 1 から引き出させて、そしてポータブルレインコート 6 の引っ張りリング 6 1 を持ち上げて、ポータブルレインコート 6 をバックパック本体と身体に覆わせるようにして、ポータブルレインコートによって身体およびバックパック本体を都合よく覆うことができ、身体およびバック

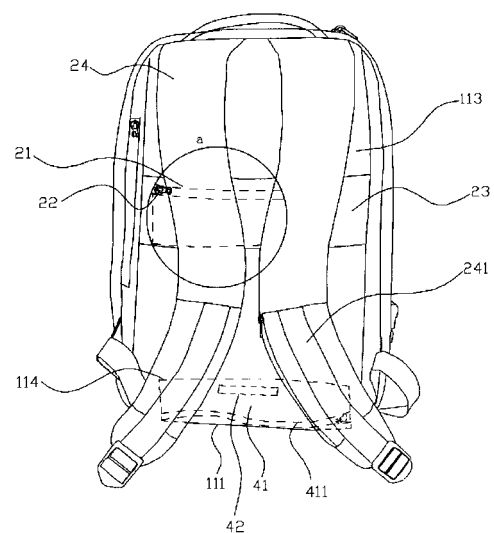
50

バック本体が雨に降られることを効果的に防ぐことができる。ユーザーがポータブルレインコート6を必要としない場合、ポータブルレインコート6を折り畳んでレインコートキャビティ41に入れてシール部4111を締めれば良い。ユーザーがポータブルレインコート6をレインコートキャビティ41から完全に取り出したい場合、ポータブルレインコート6の底部にある面ファスナーによる固定を解除して、ポータブルレインコート6をレインコートキャビティ41から完全に取り出せば良い。

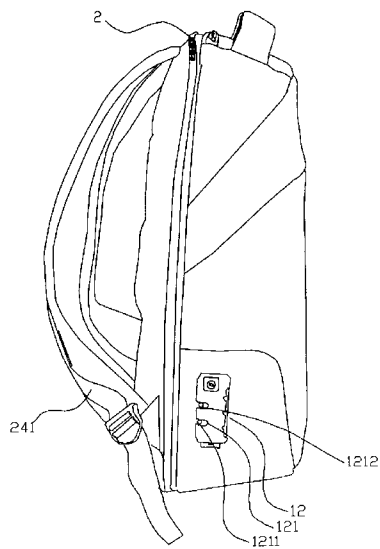
【図1】



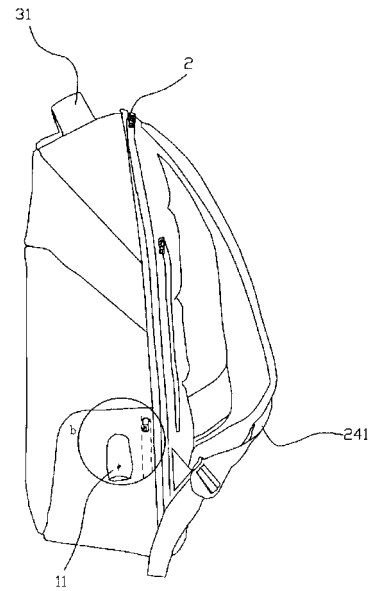
【図2】



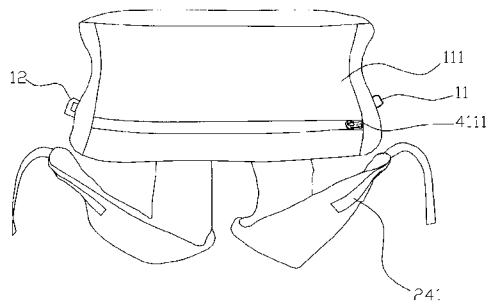
【図 3】



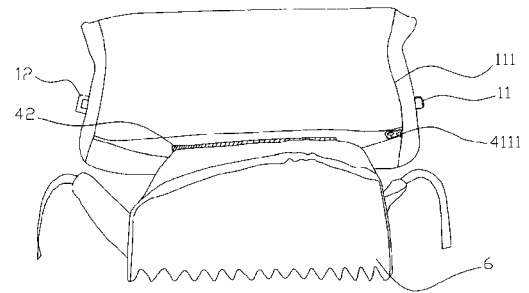
【図 4】



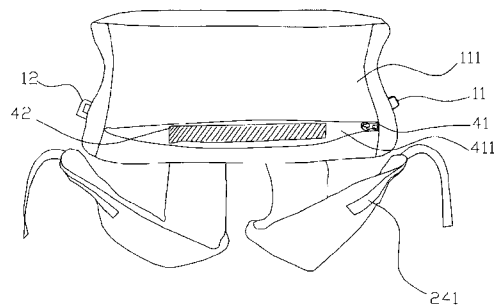
【図 5】



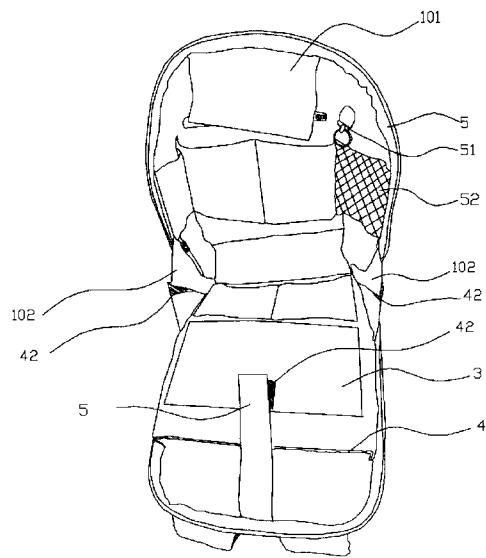
【図 7】



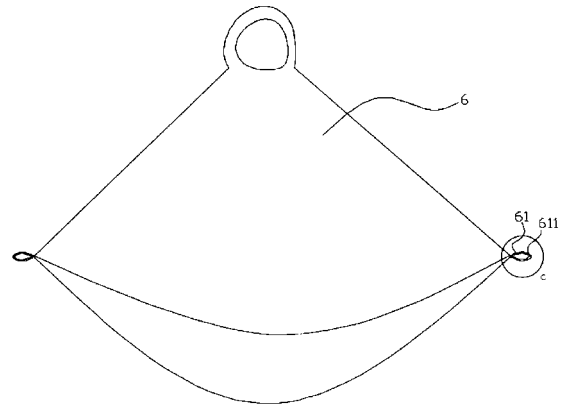
【図 6】



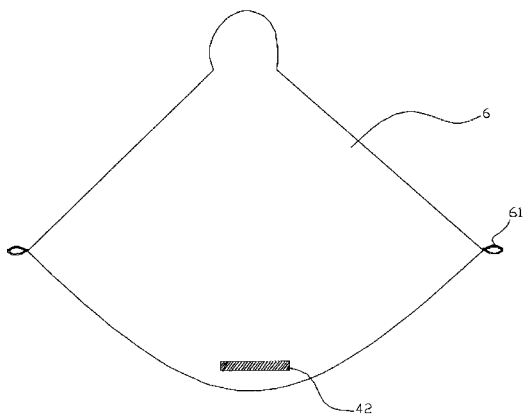
【図 8】



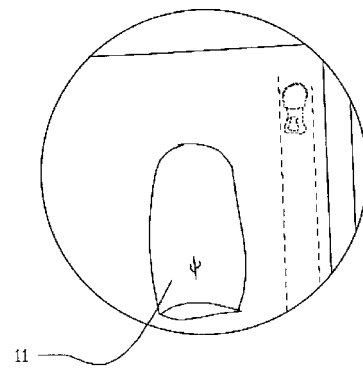
【図 9】



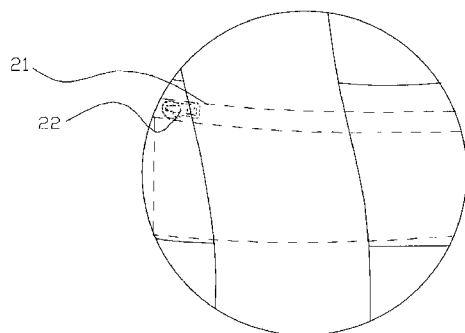
【図 10】



【図 12】



【図 11】



【図 13】

